

# 自治体 あいちの仲間

発行所 自治労連愛知県本部 名古屋市北区柳原三丁目7番8号  
U R L http://www.jaichi.jp TEL 052 916-2251  
Eメール info@jaichi.jp FAX 052 916-2308

2011.12.10  
No.1039

発行責任者 柳 進 定価 10円  
組合員の購読料は組合費のなかに含まれています

自治労連愛知県本部  
第2回中央委員会

- とき 12月17日(土)10:00~
- ところ 県本部会議室

## 正社員が当たり前前の社会へ



### 4つの挑戦かかげ全労連・全国集会



①森岡さんの基調講演に熱心に愛知からの参加者たち

全労連全国集会2011が11月19日から21日の3日間、浜松市内で開かれ、20単産47地方組織から700人以上が参加、自治労連愛知本部からは33人が参加しました。

集会は、「安定した良質な雇用、社会保障の拡充による安心社会の実現」にむけて、全労連結成から22年のたたかいを振り返るとともに、宮城県労連が大震災からの復旧・復興とくらし



## 4000人の人間の鎖!

11.26ひまわり集会 in 浜岡

# 浜岡原発いららない!

## 「東三河の会」発足

11月26日に静岡県御前崎市で開かれた中電浜岡原発の永久停止・廃炉を求める「ひまわり集会」には、全国から4000人が集まり、「原発と人間は共存できない」の思いをつなぎ、同原発を包囲しました。

集会では、主催者を代表して林静岡県評議者が、中電の浜岡原発再稼働に反対を表明。「全国の仲間と手を結んで、浜岡の地から原発をなくすのろしを上げよう」と訴え、地元御前崎市の代表は「地域に根ざした産業を育てることなく、どんどん原発依存になった

安全を考えれば永久停止しない。健全で安全な地域産業の復活に力を注ぎたい」と決意を語りました。

### 豊橋市職労はじめ6団体が呼びかけ

豊橋市で「ひまわり集会」に連帯して開かれた、「浜岡原発いららない東三河の会」(豊橋市職労、豊橋民商、年金者組合豊橋田原支部、新婦人豊橋支部など6団体が準備)の発足集会



には160人が参加。今後、東三河から浜岡原発廃炉、原発からの撤退の世論を広げる様々な活動にとりくんでいくことを確認しました。集会後には、それぞれ

の団体が持ち寄ったプラカードやのぼりを掲げ、豊橋駅前の商店街の人たちに、「浜岡原発の廃炉を」「原発ゼロの日本を」とアピールしました。

### 裁判判決 倉田不当

## なぜ認めない! 人間の命の重さを

働いた事実を

名古屋高等裁判所は11月25日、刈谷市美術館に勤務していた倉田康弘さんの過労死を、「公務外」とする不当な判決を出しました。判決は、「一審が否認した持ち帰り残業や休日出勤の一部を時間外労働と認めたものの、早朝の時間外労働な

どをすべて否認した一審判決をそのまま踏襲し、「死亡は公務に起因するものとは認められない」とする不当な判決になっています。当日は、大法院に入りきれない支援者が外で待機するほど、多くの人が詰めかけ、不当判決に対して「絶対認められないぞ」の抗議の声が、裁判所に向けられました。

報告集会では、「刈谷市の機構改革で人員が減らされている実態や、亡くなる直前の勤務時間しか見ない不当な内容」、「健康者を基準にしたもので、労働者個人の健康状態を見ない形式的

の状況、愛労連が中小企業実態調査活動について、日本医労連が組織拡大・強化について特別報告。そのあと、分科会・分科会に分かれて、労働者の深刻な状況の打開、組織の強化・拡大について論議、問題提起の4つの挑戦①労働者の実態を直視し、目に見えるようにする、②非正規雇用労働者の状況改善を中心課題とし、ディーセントワークを実現する、③働いて人間らしい生活が保障される社会の確立、④総対話と共同を広げ200万全労連にむけた組織強化・拡大のとりくみの推進を、あらためて強調しました。

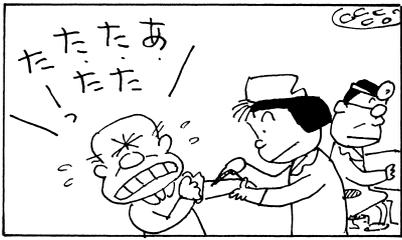


報告集会では、「刈谷市の機構改革で人員が減らされている実態や、亡くなる直前の勤務時間しか見ない不当な内容」、「健康者を基準にしたもので、労働者個人の健康状態を見ない形式的

な判断で、血も通っていない」など、弁護団からの報告が行われました。原告の倉田利奈さんは「まだ気持ちの整理が付かない」としながらも「裁判所には、人間の命の重さが分かるような判決を出して欲しかった」と涙を流し、支援者へお礼を込めてあいさつが行われました。今後のたたかいは、原告、弁護団等で判断されることとなりますが、自治労連愛知県本部として、引き続き「過労死」のない、だれもが安心して健康で働き続けられる職場づくりへ、たたかいを強めるものです。

# ニクス笑ア7

芝田☆友衛



**セツ共済** 安くて安心  
自治労連 掛金 1790円/月 → 病氣入院 5000円/1日

## '11秋闘・確定闘争で前進した非正規職員の主な処遇改善

豊橋市職労 / ①嘱託職員の夏期休暇について、正規職員との均衡を前提に勤務日数に応じた比例付与を回答。嘱託職員の再試験について、負担軽減の方向で検討。②アルバイト等の時間単価について、最低賃金の状況や他市との均衡を踏まえて改善。事務アルバイトの単価を日額6,200円(時給830円)へ改善の回答。任用形態に応じた単価の是正がおこなわれる。人間ドックを職免扱いに前進。

豊川市職労 / ①臨時・パート職員の時給改善。事務職800円を820円臨時保育士1155円を1190円、パート保育士910円を930円に引き上げ。夏季休暇1日、今年から付与。

蒲郡市職 / ①「臨時非常勤については賃金引き下げを行わない」と回答

新城市職労 / ①臨時職員の夏季休暇は来年度実施にむけて年度末に協議していく。②忌引休暇等の改善を11月1日から実施。

知立市職労 / ①臨時職員の経験加算について実施にむけた協議に入ることを確認。

碧南市職 / ①人間ドックについて、非正規職員はひきつづき自己負担ゼロとする。

瀬戸市職労 / ①今後の予算措置要求として、臨時職員(協会けんぽ加入者)のインフルエンザ接種への助成制度を実施したい。

半田市職 / ①臨時職員については給与引き下げを行わず現行どおりとすると回答

犬山市職労 / ①パート職員の経験加算について、人事システム導入に合わせて改善協議を行うことを回答。

岩倉市職 / ①パート職員の特別休暇(夏休)1日取得



## あいち自治体にはたらく非正規職員のつどい

# 正規も非正規もひとつになっ て安心して誇りをもつて働こう

「あいち自治体にはたらく非正規職員のつどい」が12月3日、労働会館で行われ、31人が参加しました。学習会では、愛知学習協会長の吉田豊さんが、「私達にもこんなことができよう。声を出して」をテーマに講演。「現場の私達には『末端』ではない。利用者、市民からは『最先端』。自分の仕事に誇りを持ち

工夫と経験による高い専門性を身につけよう。要求を通すことは、1人では難しい。団結の力、労働組合が必要」と強調しました。特別報告では、西尾市職病院支部の神谷正子さんが、夏季休暇の実施や月給の導入など、臨時職員の労働条件改善を勝ちとってきた歩み、現在の活動と今後のとりくみについて、ま

た、名古屋市職労の塚本紀子さんが「子ども・子育て新システム」の内容と問題点について説明し、劣悪な条件で働く非正規労働者の職場環境が新システムによりさらに悪くなる、阻止しなくてはいけないと訴えました。

その後、医療・保育・本庁その他に分かれて交流会が行われ、各々の職場の現状について語り合いながら、抱える悩みや、それに対する解決法など話し合い、交流を深めました。

## たたかって希望をひらこう

第16回パート・臨時などの元気のでる集会



11月27日、「第16回パート・臨時などの元気のでる集会」が労働会館で開催され、①リサイクルおもちゃづくりや、②はたらく女性のカラー診断の分科会をスタートに、記念講演・活動交流、金山駅北口での「原発を廃炉に」の宣伝行動と終日にわたってとりくみを展開しました。

「たたかって希望をひらく 原発事故とのたたかい・福島からの報告」と題して講演した全労連・全国一般の野木茂雄さんは、廃炉まで30年かかる「このまま福島に住んでいて大丈夫なのか」など、様々な思いが交錯しますが、「子や孫に必ず美しい福島を引き継ぎたい」の思いは強いです。たたかって希望を、明日をきりひらいていきたいと思えます。愛知県の仲間みなさんの引き続きのご支援を心から願います、と訴えました。

# 心のエネルギー満タンに 快適な職場づくりへ、労働安全研修会

今年で4回目を迎えた自治体にはたらく職員の安全衛生研修会が、12月2日、ウイंकあいちで行われ、10単組・108人が参加しました。

第1講義は、自治労連安・職業病対策委員の中林正憲さんが「公務職場のいのちと健康をまもるために」をテーマに、安全衛生活動のすすめかたについて講演。最低基準であるはずの労基法や労働安全衛生法が、法を守れの運動のなかで最高基準にすり替わっているという指摘。「安全衛生活動とは、本来楽しく働くことのできる職場をつくるために創造する活動」「快適な職場とは何か。職場でみんなで話し合うことが重

要」と強調しました。第2講義では、桶狭間病院藤田こころケアセンターの精神科診療部長・鈴木竜世さんが「メンタルヘルスの基礎知識と対策」と題して、うつ病やパーソナル障害について講演。うつ病の要因として心のエネルギーの低下を上げ、うつの前駆期には睡眠や休息の確保、栄養を整えること。極期には受診をすすめ、安心して休息をとらせるなどの対応について話されました。また、運動による脳体積の増加を上げ、40歳代で心拍数



参加者からは、「あらためて職場を原点にした安全衛生のとりくみの重要性が理解できた。快適な職場づくりを生かしていきたい」「うつ病対策がよく理解でき、職場でも自信をもって話せる。また、パーソナル障害についても聞けて良かった」など、労安活動のとりくみにつながるものとなりました。

### 職場活動に学習活かしたい

